

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2006年度

2007年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の縁、猪名川の水の流れに囲まれた自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展しました。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしぶこぎができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

池田市教育委員会  
教育長 村田 陽

## 例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成18年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課が実施し、中西正和が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。
4. 本書で使用する土壙の色調は、「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

## 目 次

I 歴史的環境 .....	1
II 池田城跡発掘調査 .....	5
池田城跡第54次調査 .....	6
池田城跡第55次調査 .....	7
III 榛城寺遺跡・宇保遺跡発掘調査 .....	8
榛城寺遺跡第9次調査 .....	9
榛城寺遺跡第10次調査 .....	11
宇保遺跡第1次調査 .....	12
IV 鉢塚遺跡・鉢塚北遺跡発掘調査 .....	13
鉢塚遺跡第1次調査 .....	14
鉢塚北遺跡第1次調査 .....	14
報告書抄録 .....	16

## 図 版

- 図版 1 1) 池田城跡第54次調査 第1 トレンチ全景 (南西から)  
2) 池田城跡第54次調査 第2 トレンチ全景 (南から)
- 図版 2 1) 池田城跡第55次調査 トレンチ全景 (北から)  
2) 榛城寺遺跡第9次調査 トレンチ全景 (南から)
- 図版 3 1) 榛城寺遺跡第9次調査 トレンチ全景 (南東から)  
2) 榛城寺遺跡第10次調査 トレンチ全景 (西から)
- 図版 4 1) 宇保遺跡第1次調査 トレンチ全景 (北東から)  
2) 鉢塚遺跡第1次調査 トレンチ全景 (南から)
- 図版 5 1) 鉢塚北遺跡第1次調査 トレンチ全景 (南から)  
2) 池田城跡第54次調査 出土遺物 3) 池田城跡第54次調査 出土遺物 裏  
4) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 1 5) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 1 裏
- 図版 6 1) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 2 2) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 2 裏  
3) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 3 4) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 3 裏  
5) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 4 6) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 4 裏  
7) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 5 8) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 5 裏
- 図版 7 1) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 6 2) 榛城寺遺跡第9次調査 出土遺物 6 裏  
3) 榛城寺遺跡第10次調査 出土遺物 4) 榛城寺遺跡第10次調査 出土遺物 裏  
5) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物 1 6) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物 1 裏  
7) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物 2 8) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物 2 裏

## 挿 図 目 次

I 歴史的環境	
第1図 宮の前遺跡出土石棒	1
第2図 遺跡分布図	2
第3図 神山北遺跡弥生土器出土状況	3
第4図 姨二堂古墳	3
第5図 宮の前遺跡遺構検出状況	4
II 池山城跡発掘調査	
第6図 池田城跡掘立柱建物跡	5
第7図 調査地位置図	5
池山城跡第5・4次調査	
第8図 トレンチ位図	6
第9図 第1トレンチ東壁断面図	6
第10図 第2トレンチ北壁断面図	6
第11図 出土遺物実測図	7
池山城跡第5・5次調査	
第12図 トレンチ位図	7
第13図 トレンチ西壁断面図	7
第14図 池田城跡縄張り図	7
III 禅城寺遺跡・宇保遺跡発掘調査	
第15図 禅城寺遺跡第2次調査	8
第16図 調査地位置図	8
禅城寺遺跡第9次調査	
第17図 トレンチ位図	9
第18図 トレンチ平・断面図	9
第19図 柱穴検出状況（左から 柱穴2・3・4）	10
第20図 出土遺物実測図	10
禅城寺遺跡第10次調査	
第21図 トレンチ位図	11
第22図 トレンチ平・断面図	11
第23図 出土遺物実測図	11
宇保遺跡第1次調査	
第24図 トレンチ位図	12
第25図 トレンチ西壁断面図	12
IV 鉢塚遺跡・鉢塚北遺跡発掘調査	
第26図 鉢塚古墳	13
第27図 調査地位置図	13
鉢塚遺跡第1次調査	
第28図 トレンチ位図	14
第29図 トレンチ平・断面図	14
鉢塚北遺跡第1次調査	
第30図 トレンチ位図	14
第31図 トレンチ西壁断面図	15
第32図 出土遺物実測図	15

## I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高約50mの緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

### 旧石器時代

旧石器時代に関する遺跡は少ない。旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡、宇保遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵の西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大坂府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器、平成元・7年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。神田北遺跡、宇保遺跡では、平成9年度からの大阪府教育委員会による府道神田池田線拡幅工事に伴うの調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

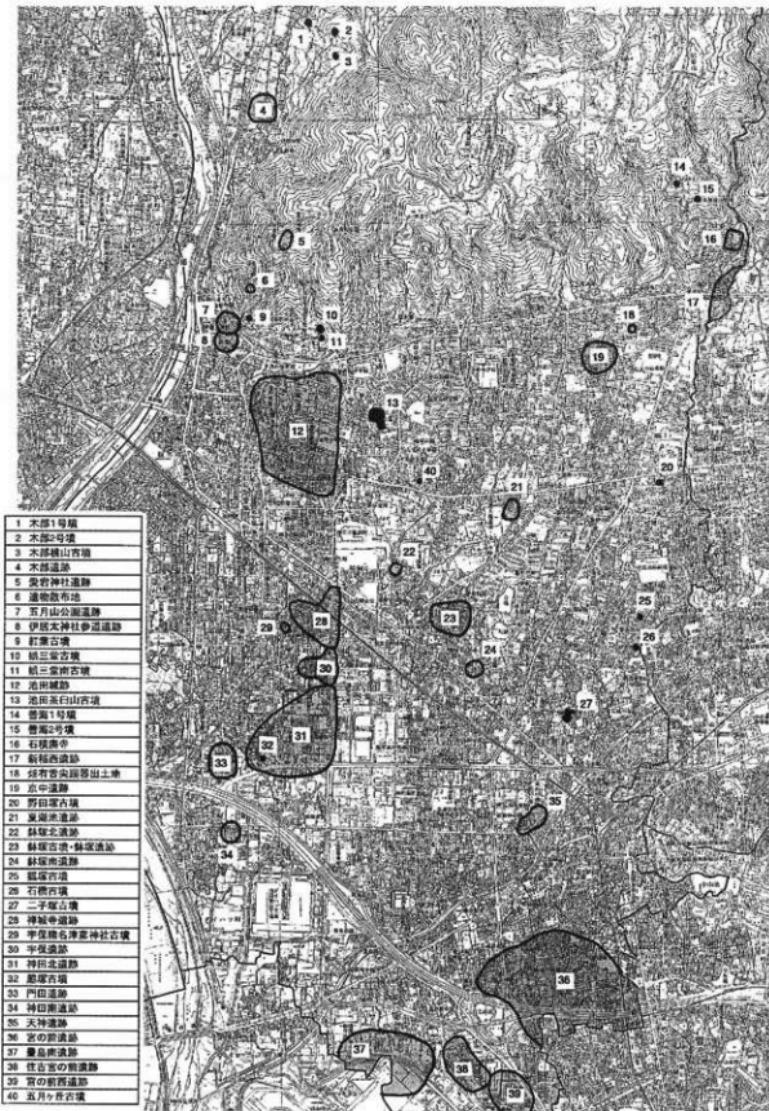
### 縄文時代

縄文時代に関する遺跡も少なく、市域北部で遺物が確認されている遺跡は、古江遺跡から石匙1点採取されているのみである。また、市内中部では、伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡でサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。



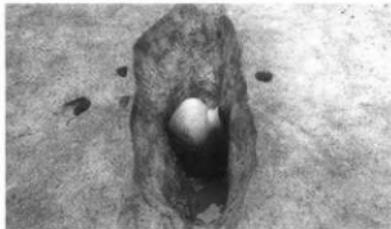
第1図 宮の前遺跡出土石棒



第2図 遺跡分布図

### 弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で、その時に弥生時代前期から後期の土器が出土している。



第3図 神田北遺跡弥生土器出土状況

弥生時代中期になると、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設に伴い、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土塙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

弥生時代後期になると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査で、ベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、神田北遺跡では、竪穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模な遺跡が増加する。



第4図 鰐三堂古墳

### 古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶臼山古墳と鰐三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、鰐三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帶神獸鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土郷が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

古墳時代後期では古江古墳、善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一单位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成17年に電波塔工事によって破壊され、その際の事後調査によって、須恵器、鉄刀が出土した。上記の小古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、鉢塚古墳と二子塚古墳は異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居が検出さ

れ、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると、少しではあるが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居跡、溝が検出されている。

#### 歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝が検出されたり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立

柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる呉庭莊との関係が考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、家臣であった荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。

#### 参考文献

- 『原始・古代の池田』 池田市立池田中学校地歴部 1985年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
- 『押城寺・宇保・神田北遺跡』 大阪府教育委員会 2002年



第5図 宮の前遺跡遺構検出状況

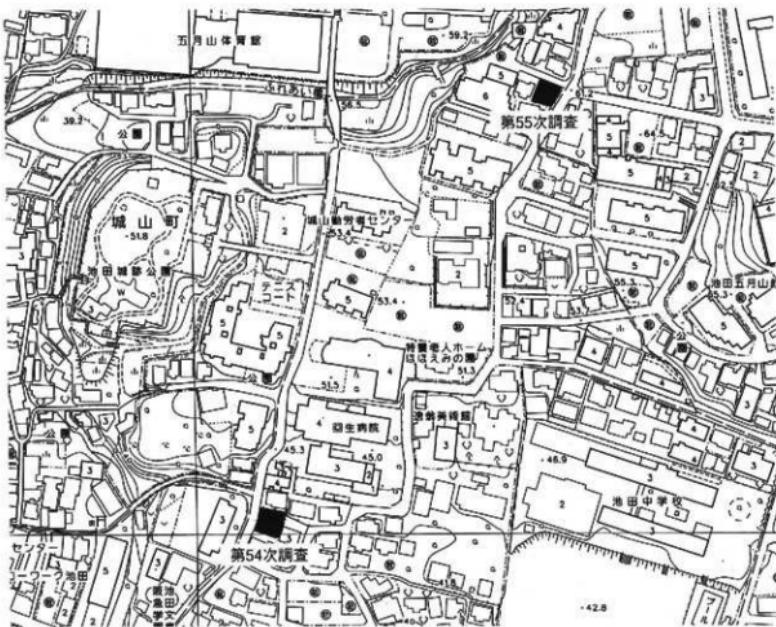
## II 池田城跡発掘調査

はじめに

池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山塊から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位



第6図 池田城跡掘立柱建物跡



第7図 調査地位置図

を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることになった。

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭の一部が発掘調査され、建物に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年から4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる壇列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明している。また、池田城以前の時代についても、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。

### 池田城跡第54次調査

#### 調査の概要

調査は池田市建石町1978-5において、個人住宅建築に先立ち実施した。

調査地は主郭部より南に位置し、大手門と考えられる場所に隣接する。また、北側の隣接地では古墳時代の土器が出土した。

南側のトレンチを第1トレンチ、北側のトレンチを第2トレンチとし調査を実施した。

調査面積は両トレンチで6m<sup>2</sup>である。

基本層位は

第1層 盛土

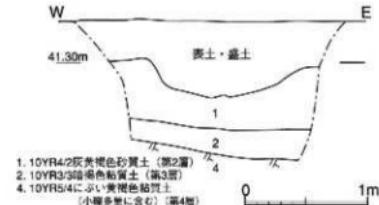
第2層 灰黄褐色砂質土



第8図 トレンチ位置図



第9図 第1トレンチ東壁断面図



第10図 第2トレンチ北壁断面図

第3層 暗褐色粘質土

第4層 にぶい黄褐色粘質土の地山である。

調査の結果、遺構は検出されなかった。

出土遺物は第2トレンチ第3層よりあった。

1・2は土師器皿、3は中国製白磁皿で、高台部分は欠損している、16世紀中ごろの白磁皿と考えられる。

#### 池田城跡第55次調査

##### 調査の概要

調査は池田市建石町1928-1において、個人住宅建築に先立ち実施した。

調査地は主郭部から北東に位置し、池田城の範囲の北端にあたる。池田城跡北側の土層の確認を主眼におき調査を実施した。調査面積は3m<sup>2</sup>である。

##### 基本層序は

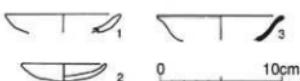
第1層 盛土

第2層 にぶい赤褐色シルトで、下層との境目は確認できず、地山の確認もできなかつた。

遺構・遺物は検出されなかった。



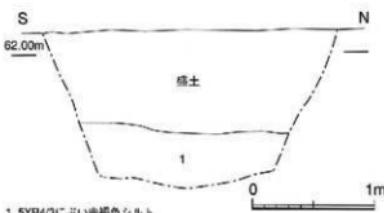
第14図 池田城跡縄張り図



第11図 出土遺物実測図



第12図 トレンチ位置図



第13図 トレンチ西壁断面図

### III 禅城寺遺跡・宇保遺跡発掘調査

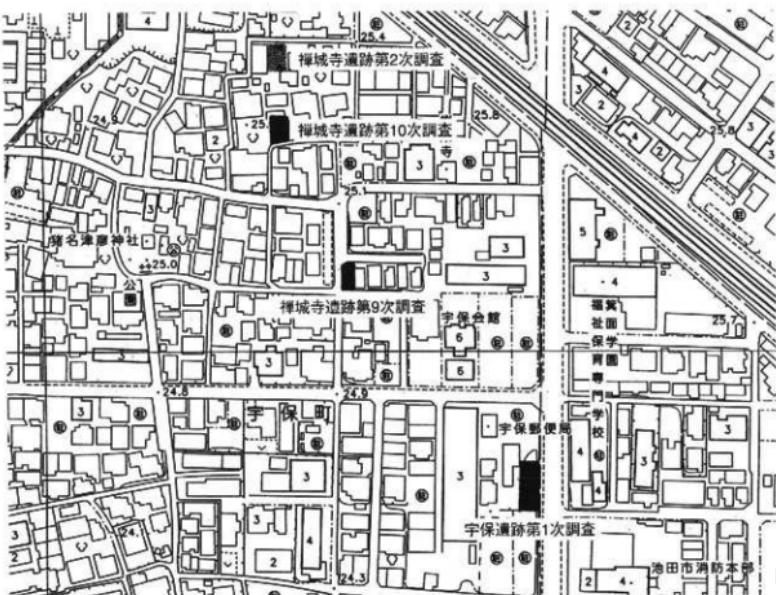
はじめに

禅城寺遺跡・宇保遺跡がある宇保町一帯は、古代末から中世の莊園・呉庭荘の一部と考えられる。呉庭荘は坂上氏の系譜を引く土師氏の開発とされ、11世紀後半には権勢家藤原氏・久我氏の所有を経て12世紀に鳥羽上皇に寄進、14世紀ごろには領主の衰退で国人池田氏の支配下になったものと思われる。禅城寺は、土師氏が俗別當に就任した善城寺に関わる寺院とされる。当寺はいったん廃絶したが、江戸時代に禅城寺として復興し、今も観音堂として守られている。

禅城寺遺跡の発見は、昭和62年マンション工事中に中世の瓦が発見されたことからはじまるが、その後、調査の件数が少なく不明な点が多くかった。しかし、平成9年、遺跡の東側に位置する府道神田池田線の拡幅工事に伴



第15図 禅城寺遺跡第2次調査



第16図 調査地位置図

う大阪府教育委員会の試掘調査の結果、中世遺物が発見されたことにより、遺跡範囲の拡大が行われた。また、平成10年に実施した池田市教育委員会による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の結果、飛鳥時代の堅穴住居跡4基、奈良時代の掘立柱建物跡1基を検出し、また、弥生時代後期の土器も認められた。こうした成果から、禪城寺遺跡は寺院遺跡だけではなく、宇保町・城南2丁目一帯にひろがる弥生時代後期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。

また、府道神田池田線の拡張工事に伴い、平成10年度から大阪府教育委員会が宇保遺跡・禪城寺遺跡・神田北遺跡の発掘調査を行い、禪城寺遺跡・宇保遺跡では大溝や旧石器等が検出されている。

### 禪城寺遺跡第9次調査

#### 調査の概要

調査は池田市宇保町238-1において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は12m<sup>2</sup>である。

基本層序は

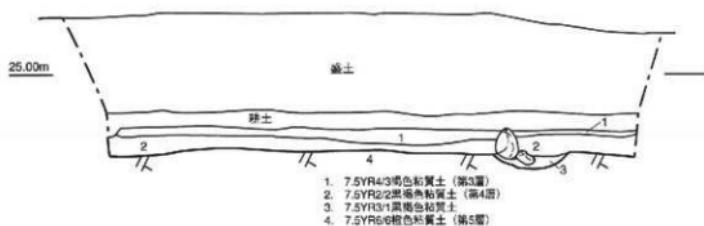
第1層 盛土

第2層 耕土

第3層 褐色粘質土



第17図 トレンチ位置図



第18図 トレンチ平・断面図

第4層 黒褐色粘質土（弥生から中世の遺物含む。）

第5層 橙色粘質土の地山である。

検出構造は柱穴・杭跡である。柱穴は直径18cm前後のものが多く、柱を支えるための根石が入れられているものもある。主な遺構の概略を説明する。

柱穴1は調査地北西より検出したもので、一部調査外に位置する。他の柱穴とは異なり直径70cmと大きく、やや方形である。

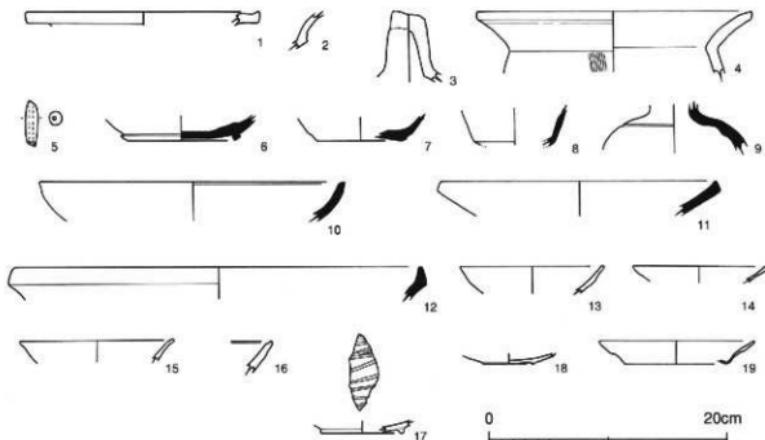
出土遺物より、飛鳥から奈良時代の柱穴と考えられる。柱穴2・3・4は、底に根石がある。

今回の発掘調査で出土した遺物の量はコンテナ2箱分であった。これらの内、大部分が包含層（第4層）から出土した瓦器碗等の中世遺物で、他に、弥生土器（後期）、須恵器がある。

1は弥生土器（後期）の壺の口縁部で、文様は認められない。2は弥生後期の高杯の杯部分と考えられ、外面には段が付く。3は柱穴4より出土した土師質の高杯。4は土師器の壺で、外面はハケ、口縁部はナデが施されている。5は土師質の土錘で、残存の長さは3.8cm、一部欠損している。6は須恵器の椀の底部で、高台を持つ。7は須恵器の椀の底部と考えられ、底部はヘラきりが施されている。8は須恵器の椀と考えられる。9は須恵器で、残存では体部に凹孔がないが、腹と考えられる。10は須恵器の鉢と考えられる。焼成が悪いためか赤褐色の胎土である。11・12は東播系須恵器の鉢である。11は柱穴4より出土したもので、口縁部は少し上方に突出する。12は柱穴5より出土したもので、11より大型で、口縁部端の張り出しも大きい。13から19は瓦器碗で、13から15は口縁端部が丸く、外湾するため、和泉型瓦器碗と考えられる。16は前のもの



第19図 柱穴検出状況  
(左から 柱穴2・3・4)



第20図 出土遺物実測図

のと異なり、内面に沈線を施し、器厚であるため、柿葉型瓦器碗と考えられる。17・18は瓦器碗の底部で、高台を有する。17は台形の高台がつき、内面見込みにヘラミガキがみられる。18はわずかな高台がつく。19は土師質の皿で、15世紀代のものと思われる。(1・2・4~6・8・9・14~19は第4層より出土、7・10・13・19は第3層より出土。)

### 押城寺遺跡第10次調査

#### 調査の概要

調査は池田市宇保町332の一部において、店舗建築工事に先立ち実施した。調査面積は6m<sup>2</sup>である。

調査地は押城寺遺跡がひろがる台地上の北西端部に位置し、飛鳥時代の竪穴住居跡等が見つかった第2次調査地の南に隣接する場所でもある。

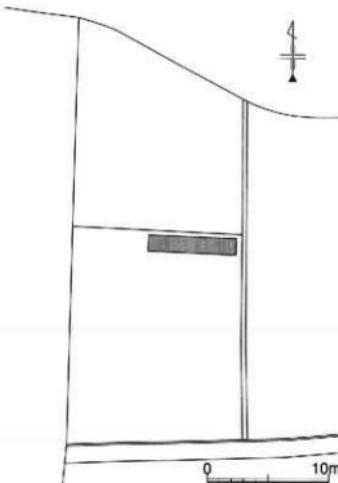
#### 基本層序は

第1層 盛土

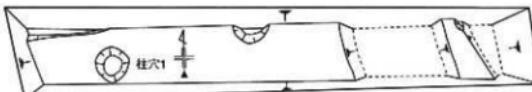
第2層 にぶい褐色シルト

第3層 橙色シルトの地山である。

検出遺構は、柱穴が3基、西端に土坑1基である。柱穴1は、直径40cm、深さ16cm、やや方形で、出土遺物はないが、飛鳥から奈良時代ころのものと考えられる。



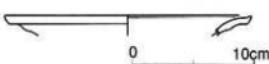
第21図 トレンチ位置図



1. 7SYR4/2灰褐色粘質シルト
2. 7SYR6/3-4にぶい褐色シルト(第2層)
3. 7SYR4/5褐色シルト
4. 7SYR6/6褐色シルト(小塹を含む)(第3層)

第22図 トレンチ平・断面図

出土遺物は、瓦器碗、土師器皿など中世の遺物が中心で、その他に土師器壺の口縁部・須恵器などが含まれる。ほとんどが小片で実測できるものは第2層より出土した土師器壺(第23図)だけである。



第23図 出土遺物実測図

## 宇保遺跡第1次調査

### 調査の概要

調査は池田市宇保町171-8、174-5・6において、建売住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は3m<sup>2</sup>である。

調査地に隣接する府道神田池田線は拡幅工事の際に大阪府教育委員会によって発掘調査が行われ、土坑・大溝等が検出されている。

基本層序は

第1層 盛土

第2層 耕土、床土

第3層 灰褐色粘土（マンガン粒含む）

第4層 灰褐色粘土

第5層 灰褐色粘土（マンガン粒含む）

第6層 橙色粘土の地山である。

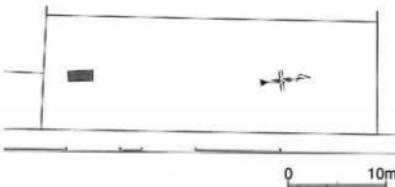
今回の調査では、遺構、遺物は検出されなかった。

まとめ

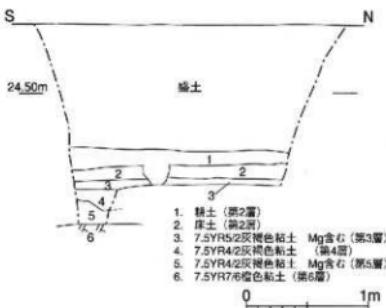
禅城寺遺跡の調査で、飛鳥時代、中世の柱跡を検出した。出土遺物は弥生土器（後期）が僅かで、飛鳥時代、中世（12世紀・13世紀）の遺物が中心に出土している。

包含層は弥生土器（後期）から瓦器挽までを一括に包含している。そのことから、13世紀に大掛かりな開墾等の土木工事が行われたため、それまでにあった弥生時代からの遺構・包含層が破壊され、弥生時代から中世の遺物を一括に含む包含層になったと考えられる。

宇保遺跡の調査は小規模なトレンチであったため、遺構・遺物は確認できなかったが、土層は良好に残っており、周辺に遺構・遺物の存在が考えられる。



第24図 トレンチ位置図



第25図 トレンチ西壁断面図

## IV 鉢塚遺跡・鉢塚北遺跡発掘調査

### はじめに

鉢塚遺跡は池田市鉢塚2丁目一帯にひろがる遺跡で、東には尊鉢厄神で有名な釈迦院の一部から西は巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳までをおおよその遺跡の範囲とする。

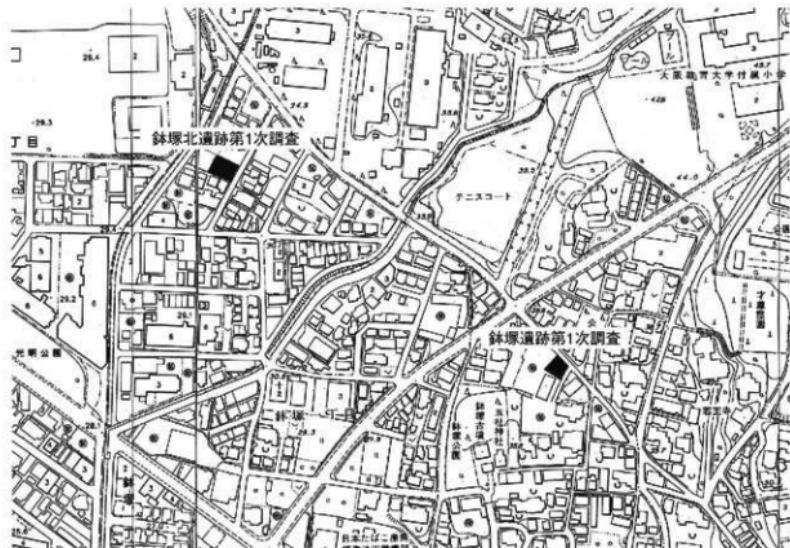
鉢塚遺跡は平成15年6月に新規発見の遺跡として取り扱われるようになったが、以前は鉢塚古墳として古墳周辺のみが遺跡範囲であった。古墳東側の建築工事の調査等によって、古墳時代以外の中世を中心とする出土遺物があり、

集落遺跡の存在が考えられるようになつた。

鉢塚北遺跡は、昭和55年度の池田市教育委員会による分布調査により確認された遺跡で、わずかに残っている畠より、弥生土器が表土採取された。その後、発掘調査は行われておらず、遺跡の詳細は不明である。



第26図 鉢塚古墳



第27図 調査地位置図

## 鉢塚遺跡第1次調査

### 調査の概要

調査は池田市鉢塚2丁目384-1において、個人住宅建築に先立ち実施した。

調査地は能勢街道沿いに位置する。敷地北側にトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は2m<sup>2</sup>である。

### 基本層序は

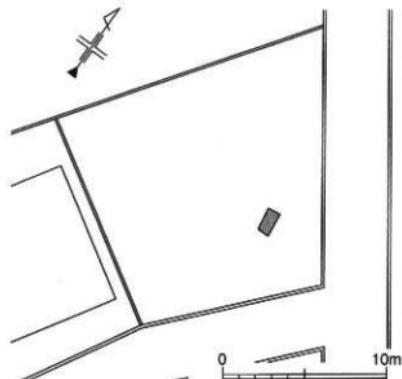
第1層 盛土

第2層 にぶい赤褐色シルト

第3層 褐色シルトの地山である。

検出遺構は柱穴1基で、出土遺物がないため、時代等不明である。

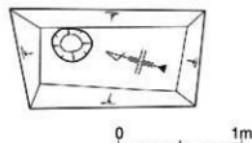
出土遺物は、第2層より土師器皿片を検出したが、小片のため図化はできなかった。



第28図 トレンチ位置図



1. SYB43Cにぶい赤褐色シルト（第2層）  
2. 10YR4/6褐色シルト（第3層）



第29図 トレンチ平・断面図

## 鉢塚北遺跡第1次調査

### 調査の概要

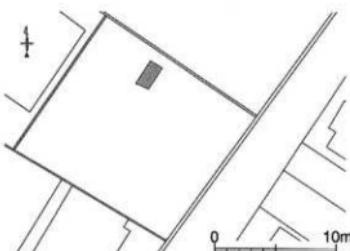
調査は池田市鉢塚1丁目302-34において、個人住宅建築に先立ち実施した。

調査地は能勢街道より南に位置し、若干南に下る傾斜地である。敷地北側にトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は3m<sup>2</sup>である。

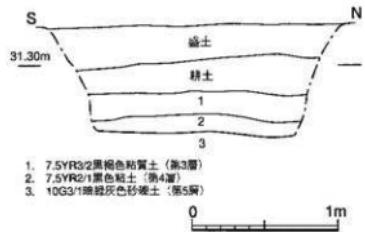
### 基本層序は

第1層 盛土

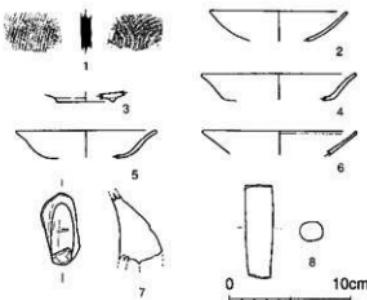
第2層 耕土



第30図 トレンチ位置図



第31図 トレンチ西壁断面図



第32図 出土遺物実測図

第3層 黒褐色粘質土

第4層 黒色粘土

第5層 暗緑灰色砂礫土で出土遺物はない。

検出遺構はなかったが、第3・4層から瓦器碗・土師器皿を中心とする中世の遺物が出土した。1は須恵器甕の体部で、外面は平行タタキの上からカキ目、内面は同心円タタキの上をナデ調整が施され、わずかに同心円タタキの痕が残る。2は瓦器碗の口縁部、3は瓦器碗の底部で、断面が三角形の高台が付く。4から6は土師器皿で、4・5は口縁部が外湾するが、6は直線的で内面端部に段を有する。7・8は瓦質の足盤である。

#### まとめ

鉢塚遺跡、鉢塚北遺跡とともに中世に関する出土遺物があり、周辺に中世の集落跡の存在が推測できる。

特に、鉢塚北遺跡は中世（13世紀・15世紀）の遺物が良好に確認できた。そのため周辺に中世の集落があると考えられる。分布調査では弥生土器を確認したが、今回は確認できず。中世以前の遺物は飛鳥時代頃の須恵器甕1点であった。

報 告 書 抄 錄

ふりがな 書名	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう 池田市埋蔵文化財発掘調査概報						
副書名	池田市文化財調査報告第33集						
卷次							
シリーズ名	池田市文化財調査報告						
シリーズ番号	33						
編著者名	中西正和						
編集機関	池田市教育委員会						
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 Tel072-752-1111						
発行年月日	2007年3月30日						
所取遺跡	ふりがな 所 在 地	ふりがな コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いけだじょうせき 池田城跡第54次	たていしちょう 建石町1978-5	272043	—	34度 49分 31秒	135度 25分 45秒	060530 ~ 060606	個人住宅建設のための事前調査
いけだじょうせき 池田城跡第55次	たていしちょう 建石町1928-1	タ	—	34度 49分 40秒	135度 25分 51秒	060627 ~ 060630	個人住宅建設のための事前調査
せんじょうじいせき 桙城寺遺跡第9次	うほちょう 宇保町238-1	タ	—	34度 48分 59秒	135度 25分 49秒	060808 ~ 060818	個人住宅建設のための事前調査
せんじょうじいせき 桙城寺遺跡第10次	うほちょう 宇保町322の一部	タ	—	34度 49分 02秒	135度 25分 49秒	061117 ~ 061120	店舗建設のための試掘調査
うほいせき 宇保遺跡第1次	うほちょう 宇保町171-8, 174-5, 174-6	タ	—	34度 50分 56秒	135度 25分 52秒	060430 ~ 060509	電光住宅建築に伴う試掘調査
はちづからいせき 鉢塚遺跡第1次	はちづか 鉢塚2-384-1	タ	—	34度 49分 04秒	135度 26分 15秒	061227 ~ 061228	個人住宅建築に伴う事前調査
はちづかきいせき 鉢塚北遺跡第1次	はちづか 鉢塚1-302-34	タ	—	34度 49分 09秒	135度 26分 06秒	070201 ~ 070202	個人住宅建築に伴う事前調査
所 在 地	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
いけだじょうせき 池田城跡第54次	城館跡・集落跡	中世	—	土師器等			
いけだじょうせき 池田城跡第55次	城館跡・集落跡	—	—	—			
せんじょうじいせき 桙城寺遺跡第9次	集落跡	弥生・飛鳥・中世	柱穴	土師器等			
せんじょうじいせき 桙城寺遺跡第10次	集落跡	飛鳥・中世	柱穴	瓦器碗等			
うほいせき 宇保遺跡第1次	集落跡	—	—	—			
はちづからいせき 鉢塚遺跡第1次	集落跡	中世	柱穴	土師器			
はちづかきいせき 鉢塚北遺跡第1次	散布地	中世	—	土師器等			



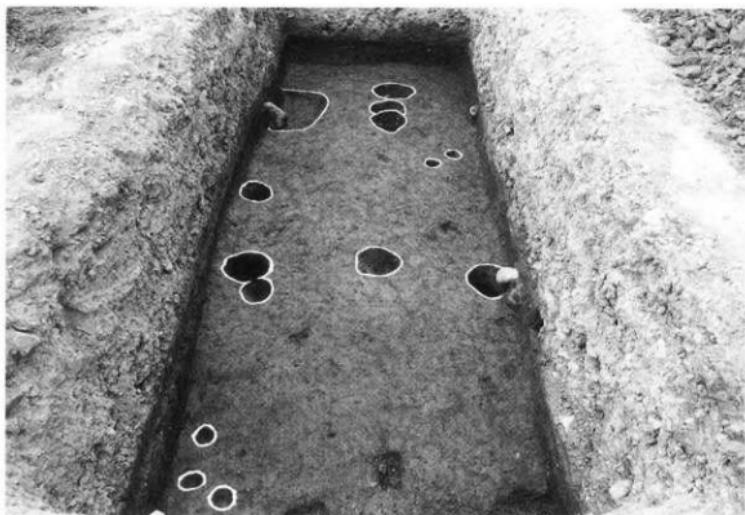
1) 池田城跡第54次調査 第1トレンチ全景（南西から）



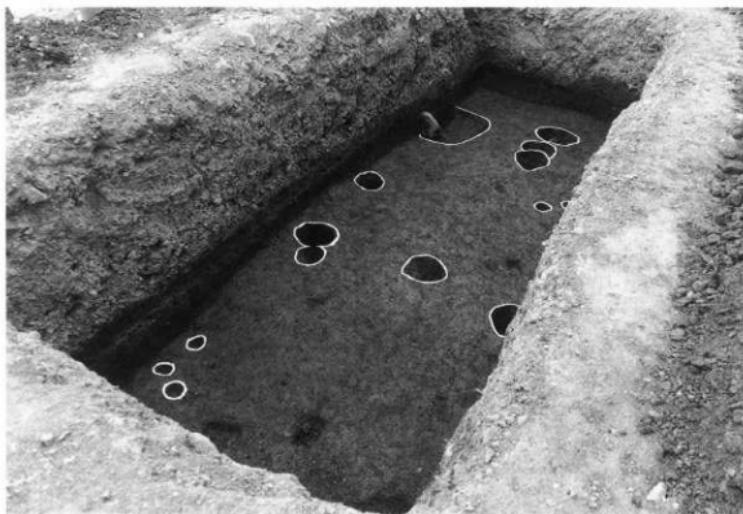
2) 池田城跡第54次調査 第2トレンチ全景（南から）



1) 池田城跡第55次調査 トレンチ全景（北から）



2) 禅城寺遺跡第9次調査 トレンチ全景（南から）



1) 禅城寺遺跡第9次調査 トレンチ全景（南東から）



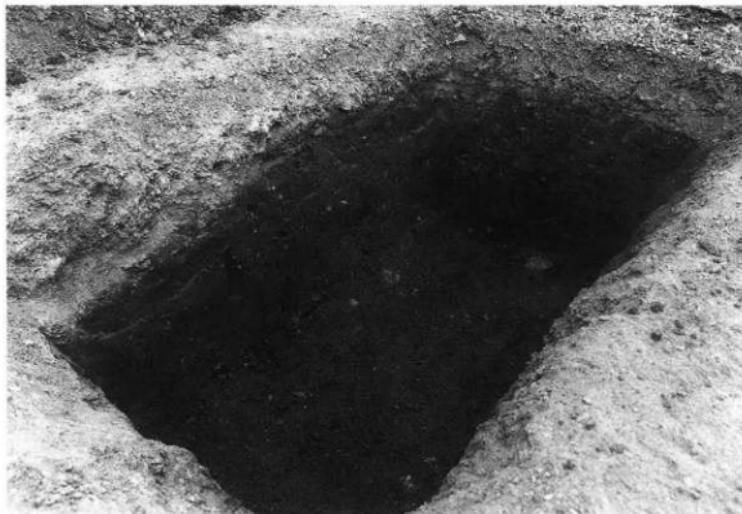
2) 禅城寺遺跡第10次調査 トレンチ全景（西から）



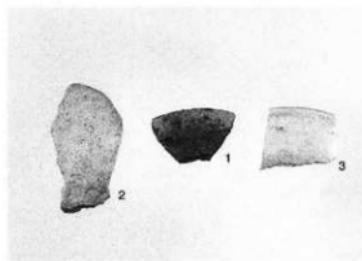
1) 宇保遺跡第1次調査 トレンチ全景（北東から）



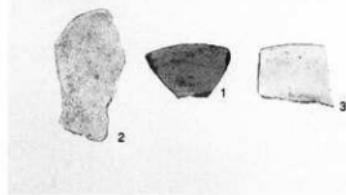
2) 鉢塚遺跡第1次調査 トレンチ全景（南から）



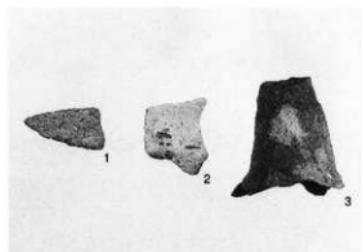
1) 鉢塚北遺跡第1次調査 トレンチ全景 (南から)



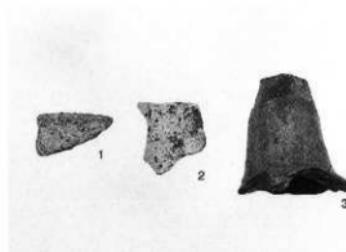
2) 池田城跡第54次調査 出土遺物



3) 池田城跡第54次調査 出土遺物 裏



4) 檜城寺遺跡第9次調査 出土遺物 1



5) 檜城寺遺跡第9次調査 出土遺物 1 裏



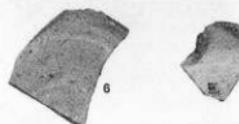
1) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物2



2) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物2裏



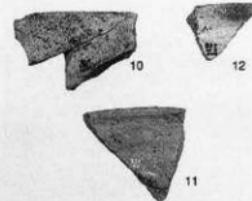
3) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物3



4) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物3裏



5) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物4



6) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物4裏



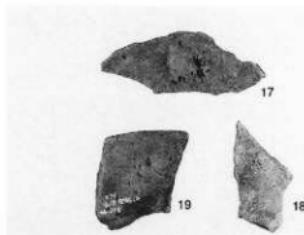
7) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物5



8) 梵城寺遺跡第9次調査 出土遺物5裏



1) 禅城寺遺跡第9次調査 出土遺物6



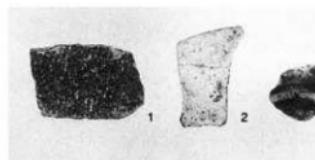
2) 禅城寺遺跡第9次調査 出土遺物6裏



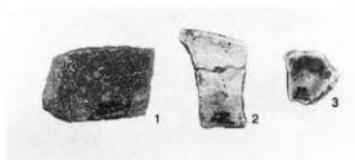
3) 禅城寺遺跡第10次調査 出土遺物



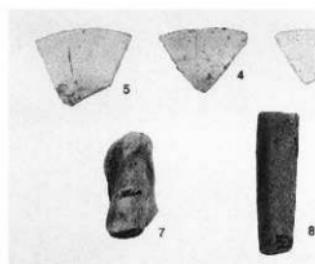
4) 禅城寺遺跡第10次調査 出土遺物裏



5) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物1



6) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物1裏



7) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物2



8) 鉢塚北遺跡第1次調査 出土遺物2裏

池田市文化財調査報告第33集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報  
2006年度  
2007年3月  
発行 池田市教育委員会  
池田市城南1丁目1番1号  
編集 社会教育課  
印刷 セイコーブロセス株式会社